令和６年２月 20 日 vol.16

幼保小の架け橋プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

園からの声　学校からの声

R5「幼保小架け橋プログラム」特別研修会　報告号

１月２５日に関東学院テンネー記念ホールで開催された本研修会は、大好評のうちに幕を閉じました。「参加してよかった！」という多くの方からの感想を基に、研修会での学びをご報告します。

港北幼稚園　　本名　愛純　教諭

「たまごをお酢とリンゴ酢につけたらどうなる？」図鑑から興味が広がった実験ブーム。「商店街を作りたい！」 色水ジュースから始まった商店街遊び。子どもたちの「夢中」の近くには、園の豊かな環境と、子どもと一緒に笑い、面白がる先生の姿がありました。

子どもの声を聴くことの大切さを強く感じた。

子どもをもっと信じていいんですね。

本名教諭の実践には、時間に追われたり正解に導こうとしたりしがちな現状を振り返りながら、**「子どもの思いや願いを実現するためには、子どもの声に耳を傾けることが本当に大切だと実感した」**という声がたいへん多く寄せられました。

幼児期の遊びにはこんなにも学びが満ちていることに驚いた。

幼児が互いに話し合い、学び合っていることを知り、幼児期の学びを侮れない！と思った。

子どもも大人も、一緒に心から楽しむことが大切なんだと感じた。

動画から聞こえる本名先生の楽しそうな声や温かい声掛けが印象的でした。

★相澤先生の実践は、実践事例集第9集（2月末発行予定）に掲載されていますのでそちらをご覧ください！

初音が丘小学校　　相澤　仁哉　主幹教諭

トイレが暗くて怖いから一人では行けないという Ｈさんの思いをクラスで共有し、トイレに絵を描くことを考えた子どもたち。園で壁面にペンキで絵を描いた経験を生かし、技術員の Ｍさんを師匠として、誰もが安心して使えるトイレ作りに取り組んだ。

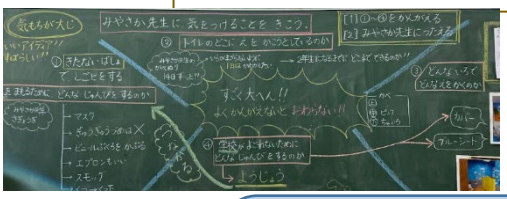
幼保の経験が小学校でも生かされていて嬉しかった。

涙した！　感動！

相澤先生は活動のゴールをイメージしつつ、話合いを通して子ども自身の思いが醸成するのを待ちました。

子ども自身が問いをもち問題解決するプロセスは３年生以上の学習につながる。

どちらの実践からも**可視化することの大切さ**が分かりました。園では主に写真やイラストを使って、小学校では板書によって子どもの思いを可視化するのです。



共主体

子どもも主体　大人も主体

共に学び合う存在であること

大豆生田先生と大内先生の対談を通して、幼児教育と小学校教育の多くの共通点やつながりが示されました。

園と学校で目指す子どもの姿は同じだということを学校全体でも共有することが必要だ。

こども青少年局保育・教育支援課　幼保小連携担当 045-671-3731
kd-youhosyo@city.yokohama.jp